

厚生労働省への就職を考えておられる皆さまへ

夏休みや春休みといえば、長期休暇が始まるとともに日本を出国し、休みが終わる直前まで（終わっても？）海外を放浪していた学生時代を終え、厚生労働省に入省して11年になりました。私も、学生時代、将来、どういった仕事をしたいかなどと考えていました。みなさんも、これから就職活動をされるに当たり、どんな仕事に向いているか、どんな仕事がしたいかなど悩まれていると思います。どこまで参考になるか分かりませんが、少しでもこの仕事に興味を持っていただければ幸いです。

厚生労働省は、何をしている職場なのでしょう。そして、数理職員は何が求められているのでしょうか。その両方の答はパンフレットを読めば、ある程度分かるかと思いますが、学生の時に想像しなかったこと、また、想像以上だったこともありました。

まず、入省当時、ここまで、日常的にマスコミに取り上げ、我々の日常生活に密着した役所だと思いませんでした。自分自身が携わったものがマスコミ等で大々的に取り上げられることも少なくないです。このパンフレットを読んでおられる方も入省された暁には、大なり小なり世の中で注目される業務に携わることになるでしょう。新聞やニュースで厚生労働省の名前が出てこない日は珍しいのではないのでしょうか。さらに、人生のあらゆるステージにおいて、厚生労働行政の政策と全く無関係な人もいないでしょう。

また、厚生労働省は、年金や医療保険などの社会保障、そして、労働政策をつかさどる役所です。少子高齢化が急速な勢いで進んでいる日本にとって、厚生労働省の役割は大きくなることはあっても、小さくなることはないことは学生時代も確信していましたが、入省し、業務に携わっても、それは同様に感じています。私が入省してからの10年を振り返ってみても、日本の人口が減少し、社会保障給付費の合計が100兆円を突破しました。少子高齢化が進むとともに人口減少社会となり、ますます、厚生労働省としても、様々な対策・対応を迫られています。入省された場合には、皆さんの若い新鮮なアイデアが世の中を大きく変えることもあるかもしれません。

さらに、社会保障関係や労働政策等のそれぞれの制度には、極めて人間くさい歴史、我々の諸先輩方の血と汗と涙の結晶があります。数学や物理の理論のように一度、正しい理論が確立されれば、不変なものではなく、時代の要請や社会構造の変化等と共に変化するということは身を持って感じてきました。その中で、数理職員に特に求められるものとしては、客観的なデータに

基づき、数字でお示しすること、そして、世の中に説明することになります。学生時代に勉強してきたこと（特に統計などの数理的素養）は大いに生かせるかと思いますが、入省後、法律や学生時代、勉強しなかった分野、そして、役所の常識、仕事の仕方等、新たに勉強することもたくさんあると思います。しかし、数理的な分析は行政に不可欠であり、皆さんが活躍できるフィールドが用意されていると思って間違いありません。

そして、周りで働いている方々についても簡単に述べておきます。皆さんも学生時代、研究室やサークルや学外の活動等を通して多くの方々と議論したり、話し合ってきたりしたかと思います。私自身、今までの社会生活を振り返ってみると、入省以来、人生の諸先輩方や同僚に業務のことはもちろん、日常の些細なことまで、学生時代同様に議論し、話し合い、色々と教えていただきました。また、周りで働いている方々は、数理職員だけではなく、省内だけでも他の職種、様々な背景を持った方々と働くことも多く、今までを振り返ってみても、多くの方に助けられて業務を行ってきました。皆さまも入省後、色々な方々と働くことになるでしょう。

日本の将来の社会保障や労働政策のため、皆様が得意な数理的な素養を生かして、一緒に汗をかきませんか。このパンフレットを読むだけでは、仕事のやりがい、仕事内容などが分からないかと思いますので、説明会や官庁訪問などで職員に直接、話を聞いてみて下さい。皆さんと働けることを楽しみにお待ちしております。

大臣官房国際課国際企画室経済連携交渉専門官
安川 学



筆者は右から5人目

経歴

- 平成17. 4 厚生労働省入省（労働基準局労災補償部労災管理課）
- 平成19. 4 年金積立金管理運用独立行政法人調査室
- 平成23. 4 日本年金機構本部事業企画部事業統計グループ参事役
- 平成26. 4 現職